



# 健康づくり、国保業務に携わって



白川町 保健福祉課長

田口 裕和

平成29年4月の異動で保健福祉課長を拝命し現在2年目となっています。ここ最近の人事異動は、建設課と保健福祉課を行ったり来たりしており、職務に対する頭の切替えが難しく戸惑うことがありました。現在、保健福祉課では国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療保険の三つの特別会計と、一般会計では高齢者福祉、障がい者福祉、福祉医療、保健衛生から成人病対策など特定健診に係る部署及び母子保健に関する事など非常に多種多岐にわたり、乳児から高齢者まで心と体の健康を担います。町民の方と直結した関係があり行政サービスの根幹の部署であるためそれぞれ担当のスキルが高く職員に支えてもらい感謝の毎日です。

ここで少し白川町の特徴を述べたいと思います。高齢化率は平成30年4月1日現在42.9%、人口は年々減少傾向ですが、ここ2、3年では、移住者が37世帯、80人の方が移住・交流サポートセンターを通じて移住されており、人口減少の勾配が少し緩くなってきています。このまま移住者が安定して数年続くと人口減少もほぼ横ばいのラインまでいくのではないかと期待しているところです。本町の医療費一人あたり費用の指数は県内でも低い位置にあります。また、特定健診の受診率も、平成29年度では49.1%となっており県内でも上位に位置していますが、男性の40代後半、女性の50代前半の受診率が低いので受診率アップを図りながら、引き続き維持、向上を目指して職員一丸となって努力して参りたいと思っています。また保険者努力支援制度が始まり少しでも点数を上げ町への交付金の取得に励むと共に、岐阜県の交付金取得アップにも協力をしているところです。

今年は少しでも健康に関心を持っていただき健診受診率のアップとともに結果相談から予防、早期発見に繋げようと「健康ポイント制度」を4月からスタートさせ広報紙などでPRをしました。その甲斐があり健診受診者や結果相談会

への来庁者が増えています。引き続き町民の皆さんの健康が保てるよう職員一同努力していきたいと思っています。

さて、わたくしの「健康づくり」としては二つほどあります。一つは歩くことです。ウォーキング程度の山歩きを目的に町内のトレッキングクラブの仲間に入れてもらい、年間に2回から3回程度、県内から県外へ出かけています。普段歩いていないので毎回足腰が弱ってきていることを実感しながら歩いています。楽しみの一つは途中の休憩時にお茶と周辺の景色を眺めること、それと参加者同士で飴やチョコなどを廻したり色々な話題が聞けることです。そしてなんとと言っても頂上へ来たときの360度の大パノラマの感動は何回登ってもいいものです。ただし、この感動は天気次第で大きく変わります！

次に「健康づくり」の二つ目は、室内で体を動かすことができるソフトバレーです。もともとバレーをやっていたこともあり、地元で健康のためにやりたい人が集まっているのを聞き入れてもらいました。現在会員16名、1チーム4人でやっています。20代・70代まで老若男女が入り交じって一緒にやっています。私たちは楽しくやっていますが、若い人たちには物足りないかも知れません。世代の違う皆さんと色々な話題や情報があり、笑いながらできるので心身ともにリフレッシュできていくのではないかと思います。自分では思っています。動きが悪くはないのですが、体が動く限りできるだけ続けていこうと思っています。

最後となりましたが、平成30年度国保改革により、県が財政運営の主体を担うこととなり2年目の保険料納付金が示されることとなります。その結果によっては税率改定に向けた準備を本格化させる必要があると思っています。

今後とも健康に留意して頑張っていきたいと思えます。ご指導のほどよろしく願っています。